

一括受注・入札による農薬・肥料価格の引下げ

西都農協(宮崎県)

取組の概要

- 各生産部会において、組合員の年間の営農活動に必要な農薬の受注を取りまとめ。これにより、ロットを確保した上で入札を実施し、入札の値下げ効果を最大限に発揮。
- 併せて、農協の配送センターに組合員自らが農薬・肥料を取りに来る「自己取り」を開始し、配送コストを削減、組合員への販売価格の引下げを実現。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 組合員からの要望を受け、一括受注と入札による資材価格の引下げを実現

生産部会や青年部との話し合いの中で、資材価格の引下げの要望が強かったことから、入札の徹底による価格引下げに取組。

入札の効果を最大化するには一回の入札ロットを大きくすることがポイントとなるため、各生産部会で組合員の農薬の受注を取りまとめ、平成28年以降、一定以上のロットが確保できた農薬は全て入札を実施(農薬卸4社に対する指名競争入札)。これにより、仕入れ総額の概ね7割~8割は入札により調達。

また、肥料についても、特に汎用性が高いものは予約購買でロットを確保し、入札を実施。

こうした、最も安価な調達先から調達する取組の徹底によって、組合員のメリットとなる資材価格の引下げを実現。

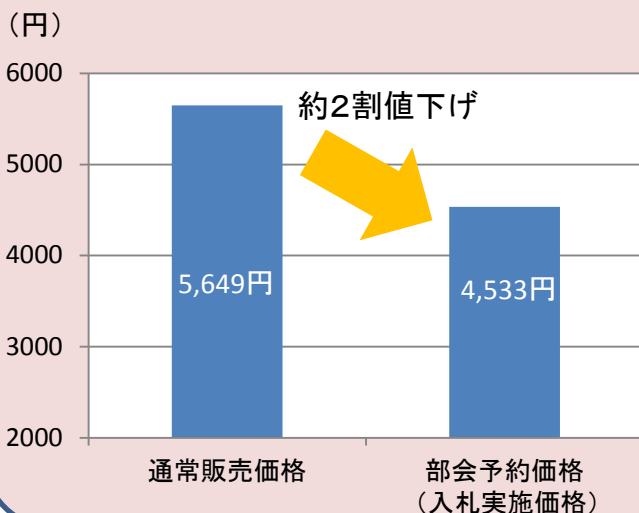
2 組合員の「自己取り」により配送コストを削減

一定以上のロットが確保できる農薬・肥料については、農協の配送センター等に組合員が直接商品を取りに来る「自己取り」を実施。

これにより、配送センター等から組合員への配送に要するコストを省き、その分、組合員への販売価格を引下げ。とりわけ、自ら大型トラック等を所有する大規模生産者に大きなメリット。

農協のメリット・農家のメリット

<入札による値下げの例(農薬A)>



<「自己取り」による値下げの例(肥料A)>

